

第16回 P1 外環沿線協議会（概要メモ）

1. 日 時：平成15年3月27日（木） 午後7時00分～9時00分

2. 会 場：都庁第一庁舎5階 大会議場

3. 出席者：23名

関係者（敬称略）

須山 直哉（練馬）、武田 佳登（練馬）、湯山 茂（練馬）、宿澤 藤子（杉並）
 濱本 勇三（武蔵野）、村田 あが（武蔵野）、新 守一（三鷹）、川原 主計（調布）
 小林 充夫（調布）、渡辺 俊明（調布）、石井 一成（狛江）、橋本 妙子（狛江）
 秋山 光男（世田谷）、江崎美枝子（世田谷）、栗林 勝彦（世田谷）

地元自治体

倉田 征壽（杉並区部長）、柴田 直樹（三鷹市部長）、新谷 景一（調布市部長）
 栗下 孝（世田谷区部長）

国土交通省・東京都

大寺 伸幸（関東地方整備局道路企画官）、伊勢田 敏（関東地方整備局第1次副所長）
 成田 隆一（東京都外かく環状道路担当部長）、宮良 真（東京都外かく環状道路担当課長）

4. 傍聴者：約70名

5. 概 要：

【外環に関する方針について】

- ・方針についての資料図面と知事が記者会見で用いた図面が違う。
 →記者発表図面と知事説明の図面の内容に違いはない。（東京都回答）
- ・アンケート結果をポスティングすることについて事前に協議会に説明がなく、協議会を軽視している。
 →配慮が不足していた点について反省している。今後は、注意していきたい。（国回答）
- ・青梅街道にインターチェンジが設置されることについては、如何なる構造であっても絶対反対である。
- ・3月14日の大臣、知事の発表について、昨日、都に抗議文を渡した。抗議文に対して都からの説明では、設置は決まったことではなく議論の軸になるものということ。
- ・外環に関する方針の報道について、国及び都の対応は信義則に反するとともに信頼関係を著しく損なうもの。とりわけ都の対応については、昭和41年における教訓が、全然生かされていない。
- ・区市によって示された図面が異なることは、重要な問題点である。
- ・青梅街道から目白通りの地上部について、地元の意向を踏まえながらということは、どこからか要望があったのか。今の段階で何故、波乱材料になるものを出さなければならないのか。
 →地上部については、練馬区の区長と区議会外かく環状道路建設促進議員連盟から書面で要望があった。（東京都回答）
- ・図面は同じで無い。この資料の出し方は、東京都が自分たちの好きな方向に誘導させるためのやり方。

【必要性の有無について】

- ・論点項目は、資料要求や単なる意見が混同し、わかりにくくなっている。次回の運営懇談会でもう一度整理したらどうか。（事務局提案に対して同意）